

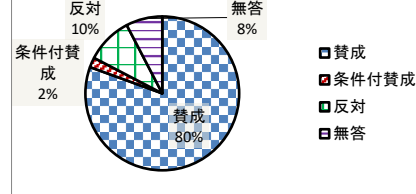
住民意向アンケート

住民代表が市当局と話し合いに臨むに先立って、自治会全員にアンケート調査を実施した
(平成26年1～2月)

問1:「藤巻町のまちづくり構想」の骨子(基本方針)を藤巻町自治会から名古屋市へ提案することについてどのように思いますか

問1	① 賛成	② 条件付き賛成	③ 賛成しない	無答	回収数
全体	116	3	14	11	144
	80.6%	2.1%	9.7%	7.6%	
	82.6%		17.4%		

基本方針についての賛否



評価

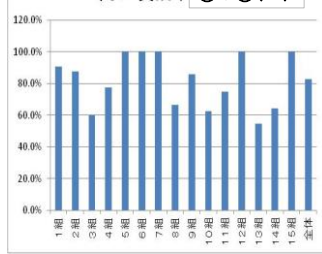
全体の賛成率=82.6% 回収率=90%
15組中8組で賛成率=85%以上
160世帯中90世帯で賛成率85%以上

結論:

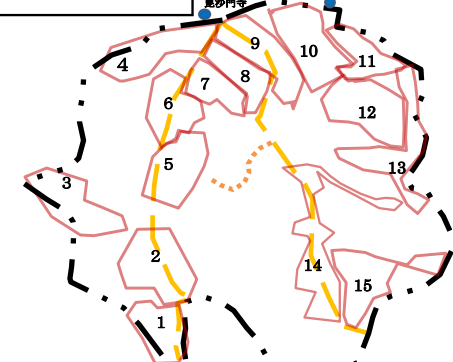
全体としては、大多数住民の賛成が確認された。「まちづくり検討チーム」はこの結果を受けて、「藤巻町のまちづくり構想」策定に向けて、名古屋市当局との協議開始を申し入れる。なお、今回アンケートに於いて、少数ではあるが、一部に不賛成の意向を持つ住民に対して、更なる理解促進の努力を積むとともに、市当局との協議の過程で極力多様な住み方を包括出来る方策を研究するよう努力する。

賛成率 (①+②(%)
1組 90.9%
2組 87.5%
3組 90.0%
4組 77.8%
5組 100.0%
6組 100.0%
7組 100.0%
8組 66.7%
9組 85.7%
10組 62.5%
11組 75.0%
12組 100.0%
13組 54.5%
14組 64.3%
15組 100.0%
全体 82.6%

問1 賛成率 ①+②(%)



藤巻町自治会の組配列



まちづくり構想のための参考アンケート(問2～問11)



「まちづくり構想」を考えるための参考として、住民の望みとするまちの基本的特性について、その指向性を探るために、4つの視点から意向を調べた。

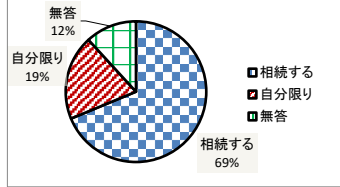
住民が望むまちの特性

- 生活インフラや住居に対する要求度(問2, 3, 4)
- この町に住むことについての愛着度(問5, 6, 7)
- 緑の環境や風致保全の規制についての受容性度合い(問7, 8, 11)
- 行政や一般市民の公益についての意識または覚悟の度合い(問9, 10, 11)

問5 :ご自身の資産(土地・建物)は最終的にどのように処分をお考えですか

	① 子供または親戚に相続したい	② 自分の代限りで手放したい	計
全体	99	28	144
	68.8%	19.4%	11.8%

資産の最終処分



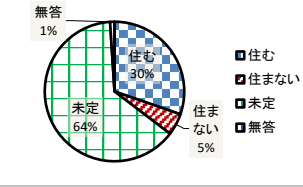
評価

約70%(68.8%)は相続を希望
どの組もほぼ同率の傾向

問6 : (問5で①を選んだ人が対象) その場合、子供または親戚はそこに住みますか

	① 住む	② 住まない	③ 今の段階ではわからない	計
全体	30	5	63	98
	30.3%	5.1%	63.6%	1.0%

子供や親戚はそこに住みますか



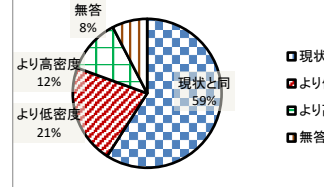
評価

相続を考えている人の約64%は決めかねている。
本問への関心度は極めて高い。(無答が少ない)

問7 : 将来の藤巻町について

	① 現状と同じ低層住宅地	② 今より緑豊かで低密度な低層住宅地	③ 他世代居住も可能な、今よりも高密度な住宅地	計
全体	85	31	17	111
	59.0%	21.5%	11.8%	7.6%

将来の住宅地像



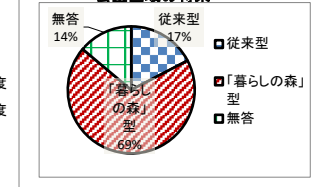
評価

約60%は現状と同じ低層住宅地を望んでいる
約80%は現状並みまたは今より低密度な住宅地がよいと考えている

問8 : 都市公園区域から除外されない公園(予の将来像はどのようなものであるべきか)

	① 市が完全に管理する従来型の公園(そこには住民が居て、市民(住民も含む)が里山保全活動に取り組む本当の「暮らしの森」)	② 市が管理する従来型の公園(そこには住民が居て、市民(住民も含む)が里山保全活動に取り組む本当の「暮らしの森」)	計
全体	25	99	124
	17.4%	68.8%	13.9%

公園区域の将来



評価

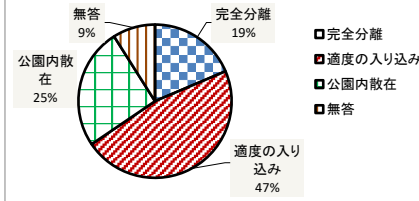
ほぼ全地域の住民が、住民と公園との共生を望んでいる

問9 : 都市公園区域から除外される「住宅区域」では、住民と一般市民との接触や交流についてどのように思いますか

- 「住宅区域」と「公園区域」は完全に隔離し、一般市民の住宅区域へ立ち入りを制限するべきである
- 「住宅区域」と「公園区域」が適度に入り組んで住宅を含めた「里山」的景観を構成するのがいい
- 「公園区域」内にも住宅を適度に散らせて「公園」を訪れる一般市民にとって安心して散策できるとよい

	① 完全分離	② 適度の入り込み	③ 公園内散在	無答	計
全体	27	68	37	13	145
	18.6%	46.9%	25.5%	9.0%	

住宅区域での一般市民との接触度



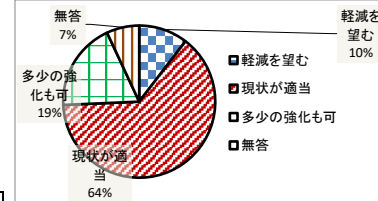
評価

どの地域でも一般市民の立ち入りを好まない人が約20%いる①
大多数の人は、一般市民との適度な接触を容認している②+③
3つのタイプの生活が混在できるような住宅配置を実現出来るのが望ましい

問10 : 「緑」の保全および「町なみ景観」の保全について藤巻町の永久存続が実現した場合に、環境保全に関して法的または自主的ルールについてどのように思いますか

	① 現在より軽減を望む	② 現状が適当	③ 多少の強化は必要	無答	計
全体	15	92	27	10	144
	10.4%	63.9%	18.8%	6.9%	

環境や景観保全の規制



評価

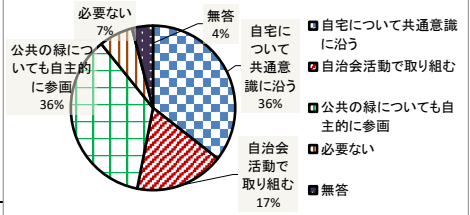
大多数の住民(約64%)は、現状程度の規制を歓迎している
一部の住民(約19%)は多少の強化も容認する覚悟がある
両方合わせると約80%の住民が環境や景観保全に積極的である

問11 : 魅力ある町の景観を維持・保全するために、住民はどのような努力をする必要があると思いますか

- 自己の住宅の形態・管理をまちの景観維持・保全にふさわしい共通意識に沿って取り組む
- まちの景観維持・保全に関しては、自治会活動で取り組む
- 住宅周辺の公共の緑も含めて住民は可能な範囲で自主的に維持管理を参画する
- 自宅も含めて景観の維持保全に参画する必要はない

	① 自己の住宅の形態・管理をまちの景観維持・保全にふさわしい共通意識に沿って取り組む	② 自治会活動で取り組む	③ 公共の緑についても自主的に参画	④ 必要ない	無答	計
全体	69	34	70	13	8	194
	35.6%	17.5%	36.1%	6.7%	4.1%	

景観維持のための住民



評価

3・9・12・13組は他の組に比べて自宅の管理について地域共通意識と協同するモチベーションが低い
「公共の緑」の維持・管理に対する、自主的参画意欲はほぼ全地域で同程度である(除く11組)
否定的な姿勢は極少数である(「必要ない」or「無答」)